

令和7年12月23日
(2025年)

保護者の皆さまへ

吹田市立古江台中学校
校長 佐藤 忍

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

- ・どの領域でも平均正答率が全国値を上回っている。
- ・問題の無回答率が概ね全国値より低く、前向きな学習意欲がうかがえる。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・「漢字・語彙の使い方」は概ねできている。

我が国の言語文化に関する事項

- ・正答率が全国値より上回っており、良好な結果が見られる。無回答率も極めて低く、意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

話すこと・聞くこと

- ・正答率は全国値より上回っており、良好な結果が見られ、無回答率も低いため、意欲的に取り組んでいることがうかがえる。ただ、ごく少数ではあるが、正答率が全国値をやや下回っている問題を見ると、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。

書くこと

- ・正答率は全国値を上回っており、良好な結果が見られる。しかし、無回答率が全国値より高い問題があり、「自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠を明確に書く」ことへの苦手意識を感じていることがうかがえる。

読むこと

- ・正答率は全国値を上回っており、良好な結果が見られる。しかし、「文章の構成や展開について考える」問題で無回答率が高くなっており、他の領域にも共通する「表現の工夫」を読み取る力が弱いことがうかがえる。

●国語科における成果と今後の改善点について

- ・今回の調査から、生徒の日頃の学習成果と努力を確認することができた。
- ・自分の考えを伝えるための「表現の工夫」について、授業の中で触れる機会を増やす必要がある。
- ・資料を活用して読み解いたり、資料から自分の考えを伝えたりする上で必要な「論理的思考」の向上に取り組む。

●数学《概要》

すべての領域において、平均正答率は全国値を上回っている。

●数学《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と式

・すべての問題で、平均正答率は全国値を上回っている。

図形

・すべての問題で、平均正答率は全国値を上回っている。

関数

・すべての問題で、平均正答率は全国値を上回っている。

データの活用

・すべての問題で、平均正答率は全国値を上回っている。この分野で無回答率が全国値と比べて高くなっている点が目立っている。

●数学科における成果と今後の改善点について

- ・基礎基本を身につけ、応用問題に対してもあきらめずに解こうという姿勢が身につけている。
- ・無回答率が全国値よりも高いところもあるが、憶測で回答を行うのではなく思考した上での無回答は悲観するものではないと考えている。
- ・記述式の解答は、引き続き、書くことへの意識を持たせたい。
- ・「データの活用」の無回答率が高いことは、あまり取り組んだことのない未経験の問題への理解が苦手と考えられる。今後、より多くの問題に取り組む必要がある。

●理科《概要》

- ・多くの問題で正答率が全国値を上回っている。
- ・ほとんどの問題で無回答率が全国値より低く、前向きな学習意欲がうかがえる。

●理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

「エネルギー」を柱とする領域

・すべての問題において正答率が全国値を上回っているが、無回答率が全国値より高い問題もあった。日々の学習において取り組む姿勢を育成していく。

「粒子」を柱とする領域

・すべての問題において正答率が全国値を上回っているが、無回答率が全国値よりやや高い問題もあった。授業ごと及び単元ごとの振り返り等を通じて、日々の学習において取り組む姿勢を育成していく。

「生命」を柱とする領域

・多くの問題で正答率が全国値を上回っているが、正答率が全国値を下回る問題もあった。また、無回答率が全国値より高い問題があり、明確な理由を持って選択、解答できるように育成していく。

「地球」を柱とする領域

・すべての問題において正答率が全国値を上回っているが、無回答率が全国値より高い問題も見受けられる。日々の学習において取り組む姿勢を育成していく。

●理科における成果と今後の改善点について

- ・今回の調査から、生徒の日頃の学習成果と努力を確認することができた。
- ・授業において、記述式の取り組みをさらに行っていく必要がある。
- ・「思考・判断・表現」の観点をさらに伸ばすために、多くの題材に触れ、言葉でまとめる活動などの機会を増やしていく。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【自分自身のことについて】

- ・「自分にはよいところがあるか」は全国値を下回っている。
- ・「読書は好きですか」は全国値を上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」は全国値を下回っている。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」は、全国平均を下回っている。
- ・「普段の生活で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」は全国値をやや上回っている。

【家庭生活・生活習慣について】

- ・「朝食を毎日食べている」は全国値をやや下回っている。
- ・「毎日同じくらいの時刻に起床している」は全国値をやや下回っている。
- ・「あなたの家にはどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除きます）」という設問において、100冊以上と答えている割合は全国値を上回っている。

【学校生活について】

- ・「学校に行くのが楽しい」は全国値を下回っている。
- ・「友達関係に満足していますか」は全国値を下回っている。
- ・「授業や学校生活で協力して課題の解決に取り組んでいますか」は全国値をやや下回っている。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」は全国値とほぼ同じである。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」は全国値をやや上回っている。
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めるために、学級のグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」は全国値をやや上回っている。

【学習習慣について】

- ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたり1時間以上勉強している（学習塾や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」は全国値を上回っている。

【学習について】

- ・「PC・タブレットなどのICT機器を使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる」「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる」「ICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」は全国値をやや上回っているが、「ICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる」は全国値をやや下回っている。
- ・「国語の勉強は、好きだ」は、全国値を下回っている。
- ・「数学の勉強は、好きだ」は、全国値を上回っている。
- ・「理科の勉強は、好きだ」は、全国値を下回っている。

3. 今後の取組について

今回の調査の結果を踏まえ、本校では引き続き、生徒の基礎的な知識及び技能の習得を目指し、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を育みながら、主体的に学習に取り組む態度を養えるような取り組みを思考して実践できるようにしてまいります。授業については、生徒が「学ぶことが楽しい」「より深く学びたい」と思えるものになるよう、個々の指導力の向上や、質の向上を目指し、教職員研修等をたくさん実施できるよう努めてまいります。特

に、生徒が学習において、自らの思考を深めるためのツールとして ICT 機器をより積極的に活用できる手立てや指導法の研究を進めてまいります。

そして、生徒が将来についての明確な展望を持ち、各々が自らに必要な力をつけられるよう、特に行事やそれに関わる学校生活・教科指導の充実に努め、自分の考えや思いを相手に伝え、理解してもらえようとする取り組みを推進してまいります。さらに、授業における言語活動を充実させるため、授業内での意見交換や交流、班活動の活性化、行事への主体的な取り組みなどを通じた言語活動を考慮してまいります。

近年、SNS 等の普及により、他者とのコミュニケーションの方法が多様化している中ではありますが、学校生活においては、「『みんなが みんなで みんなをおもろくする学校』にする」ため、様々な場面での対話を行い、相手の気持ちに寄り添うことができる力、他者の思いに共感する力を育みたいと考えております。また、「学校はいじめを絶対に許さない」というメッセージを引き続き強く発信し、指導に臨んでまいります。

ご家庭におかれましては、基本的な生活習慣の確立にご尽力いただいております。子供たちが落ち着いた学校生活を送れているのは、ひとえにご家庭のお力が大きいと認識しております。引き続き子供たちへのご支援をお願いいたします。また、ぜひお子様とたくさん会話する時間を持っていただき、学校生活について話題にする機会を作っていただければ幸いです。

